

専念寺通信

八月号 (NO.120)

毎日のように最高気温が更新されることしの夏です。熱波とかゲリラ豪雨、のような耳新しいことばがテレビなどで報道されます。夕立が降って、少し気温がさがり、夜は涼しくなる・・・というふうな日本の夏は少しずつ変わりつつあるようです。みなさま、お変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか？

☆盂蘭盆会

今年のお盆は入りの日の13日から15日までがすべて平日に当たっていたため、その前の週末からお盆明けの週末まで、檀家さまがおいでくださいました。全部で113軒のご家族が猛暑の中、お墓参りにいらっしゃいました。芳名帖に記帳していると、そこに汗がしたたり落ちたりと、毎日とてもとても暑いお盆でした。今年は6月号でご紹介したNPO法人でもとめた、カンボジア女性が手作りした小さいマスコットの動物を皆さまに差し上げました。ずいぶんとささやかな品ですし、動物の種類も限られており、躊躇いたしましたでしたが、皆さまは私共の予想以上に喜んでくださり、「私の干支は馬だから馬を・・・」や「わしは丑年だから。」とか「犬はありますか？」など、お墓参りのちょっとしたおしゃべりのあいまにまた別の会話が生まれました。



☆小さなお知らせ: NPO 法人「幼い難民を考える会」のこの一年の報告

書を見ると、応援しているのは多くがキリスト教の団体です。けれどひとつだけ仏教系の団体があり、名前を「アーユス」といいます。書類上では日蓮宗のお坊さんが多い印象でしたが、先日、この団体主催の集まりがありました。会場が原町3丁目の日蓮宗のお寺でしたので、出かけてみました。「アーユス」は仏教の教えにもとづいた平和運動や、環境のことや、貧しい人々を救う活動などのほか、核の問題、世界規模の民族の争いについてなど、多岐にわたって活動しており、若い住職さんの発言も多く頼もしい印象でした。集まっていた人は30人くらいで、会社員、引退後のご夫婦など様々でしたが、この団体の責任者は町田にある浄土宗のお寺のご住職だったので、そのご住職と直接お話することができました。「檀家さんを守るのが私たちのつとめです。」とおっしゃり(まったく同感です)、若いころ、アジアの貧しい国に行ってみて、そこから自分にできることはないかと、いろいろなことを始めたこと、だんだんとその視線がひろがり、今では法務をこなしつつ、憲法9条を守る運動(私共でも署名をしていました。今は沖縄の米軍基地を減らしてもらおう署名を集めています)、ほかにもさまざまに活動していること、その一環としてNPO(特定非営利)法人「幼い難民を考える会」に寄付し続けていること、などを伺いました。私共は、数年前から、檀家さまから寄せられた使用済み切手を送ってキリスト教会とご縁ができ、アジアの問題を通じて「幼い難民を考える会」とご縁ができ、そしてまた今度は「同じ仏教なのだから」と日蓮宗、浄土真宗などの僧侶と協力しあって力強くボランティア活動をしている仏教のNPO法人「アーユス仏教国際協力ネットワーク」とご縁ができ、仏縁という語を思ったことでした。お暑い日々が続きます。みなさまくれぐれもお大切になさってください。

平成22年8月1日 大黒

